

## 米国 ワシントン州は最盛期のサクランボを空輸

[FreshPlaza 2024年6月26日](#)

6月に始まる甘果オウトウの出荷の最盛期には、シアトル・タコマ国際空港(SeaTac)の貨物機の運航が12週間にわたって大幅に増加する。米国の甘果オウトウの約90%を生産することで知られるワシントン州は、特にボーイング社の貨物機を利用した輸出のハブとなっている。

ボーイング社商用機部門のマーケティング担当ディレクターであり、貨物機のモデルリーダーであるジョン・パードック氏は、主に海外市場で1kg当たり最大40ドルの小売価格を達成できる高品質のサクランボの輸出に注目している。米国の太平洋岸北西部は年間約4万トンのサクランボを輸出しており、これは777型貨物機約400機分を満載にする積載量に相当し、同空港はこの量の約半分を扱っている。

中国、韓国、東南アジアが主な輸出先として注目されており、品質を維持するため、サクランボを果樹園から商品棚まで48時間以内に運ぶことを目標としている。サクランボは傷みやすいため、品質を維持するために迅速な輸送が必要であり、航空機はサプライチェーンの不可欠な要素となっている。同氏は、サクランボは湿度、温度、物理的な損傷に敏感であるため、輸送に最適な条件を提供できる貨物機の恩恵を受けていると説明する。特にボーイング777型貨物機は、高い積載密度と個別に制御可能な貨物室を備えている。

ボーイング社はまた、サクランボ等の生鮮食品の輸送能力をさらに向上させることを約束する777-8F型機を投入する予定である。この新型機は、貨物室の大型化、積載量の増加、環境制御システムの強化を特徴とし、摂氏2度まで温度を下げるができる。99.7%のスケジュール信頼性を備えたボーイングの貨物機は、これらの生鮮食品が最適な状態で国際市場に届くことを保証し、甘果オウトウの出荷シーズンにある輸出業者にとって引き続き重要な資産である。

出典: [aircargonews.net](http://aircargonews.net) (翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

## メキシコ 干ばつによりハリスコ州産アボカドの収穫開始が遅れる

[FreshPlaza 2024年6月27日](#)

メキシコのハリスコ州では最近の干ばつにより、アボカドの収穫開始がわずかに遅れている。同州のアボカド生産者と輸出業者を代表する団体は、最近のミチョアカン州での米国の検査官による検査の一時的な停止(治安の悪化による)は影響しなかったとしているが、彼らは突然の供給ギャップを活用することができなかった。

ハリスコ州アボカド協会(APEAJAL)のエレアザル・オセゲラ・アグアヨ会長によると、隣の州で最近起こった検査停止の間、ハリスコ州はそれを穴埋めして需要を満たすことができなかった。同会長は、「検査の停止は問題ではない。ハリスコ州は、出荷計画に従って米国に果実を送っている。認定済みの果樹園から出荷できる果実は限られているため、これ以上出荷することはできない」と説明する。(以下「」は同会長の発言)

APEAJALは、ハリスコ州の3,200のアボカド生産者とこの地域で活動している23の包装・輸出企業を代表している。同州の主要な輸出市場は日本、カナダ、EU、米国であり、インド、韓国、中国、マレーシア、チリでの輸出拡大を目指している。「来年は、新しい果樹園で収穫が始まるので、昨年よりも多くの出荷量を予定している。ハリスコ州は30カ国に輸出し、うち米国に13万トン、カナダ、日本、EU、南米や中東諸国等に7万トンを輸出する。米国では、カリフォルニア、テキサス、フロリダの各州に果実を送っている。」

同会長は、アボカドの成熟を待っており、7月4日(独立記念日)など別の時期に米国で需要が高いからと言って出荷量を増やすことはないと言う。「今のところ、我々は果実が適切な乾物率に達するのを待っている。我々は高品質の果実を提供することに関心を持っており、祝日に向けての輸出の増加は想定していない。」

**メキシコの干ばつはすべての作物に影響** 同氏は、進行中の干ばつがすべての作物に影響を及ぼしていると話す。「干ばつはすべての生産者に影響を及ぼし、アボカドの生産に大きな影響を与えているが、我々はそれに対処するために多くの戦略を実行している。幸い今週は大雨が降っており、大部分の生産者は雨水を貯める手段を持っている。乾季を乗り切るため、貯めた水が少なくとも5~6カ月はもつことを願っている。」

執筆者: クレイトン・スワート